

2021 年度経済学部 FD 活動報告

経済学部 小塚匡文

経済学部の FD 活動は、授業アンケートなど全学の FD 活動や、経済学部独自の取り組みである学生ミーティングを通して学生から寄せられた意見・要望を、教員間で共有して相互に学び合うことで、学部全体の教育活動の水準を引き上げることを目的としている。

2021 年度の経済学部における具体的な FD 活動は以下の 3 つである。

1. 学生 FD ミーティング

経済学部の各ゼミから学生 13 名と 12 名の教職員が参加して、学生 FD ミーティングを 2022 年 3 月 1 日(火)に、Microsoft Teams を利用したオンライン形式で開催した。このミーティングは毎年開催しており、学生から 講義・施設および学生生活全般に関する改善点を提案してもらうことで、今後の改善策を考えることを目的としている。具体的には、「オンライン講義と対面式講義について」「大学側に求める設備面での要望」「大学による新型コロナウイルス対策について」「次年度講義に関する要望」といったトピックを議題に挙げている。このミーティングは、学生たちが日ごろの大学生活や授業内容についてどのように感じ、受け止めているのかを直に聞くと同時に、学生同士の交流の機会となっている。今年度の学生 FD ミーティングでは、次のような意見が出された。

講義・履修関係では、「オンライン講義は時間活用の面で便利」「入学以来、オンライン講義を受けていたので慣れた」「対面式講義は集中ができる」「時差登校ができるように時間割を検討してほしい」といった意見が出された。

施設関連では、「食堂の充電設備を目的に利用する人が多いので狭い。増設してほしい」「充電設備を他にも作って欲しい」「バス停の屋根を延長してほしい」「教室の換気システムを改良して欲しい」といった意見が出された。

新型コロナウイルス対策については、「食堂が密となっている状況を改善してほしい」「教室に新しい換気装置を設置してほしい」といった意見が寄せられた。

次年度講義に関する要望については、「講義形態の変更は 1 週間前の告知では急である」「講義形態の変更についてはあらかじめルールを作ってほしい」「講義形態を統一してほしい、あるいはすべての講義でハイブリッド式を導入」「講義動画は残してほしい」「オンラインのみだと、サークルにも入れない。部活・友達・ゼミ生との関係など人間関係を築くためにも、対面式が良いのではないか。特に 1 年生への配慮で入学当初は対面にしてほしい」といった意見が出された。

なお、これらの要望・意見の一部は、関係する部署とも共有をしている。

写真:学生 FD ミーティングの様子

(Microsoft Teams のスクリーンショット／写真について被撮影者の承諾済み)



2. FD 勉強会

2022年3月15日(月)に、経済学部FD勉強会を実施した。今年度の勉強会のテーマは、
(1) 10月に実施した臨時授業アンケートで寄せられた意見と対処法についての情報共有とディスカッション(事前に寄せられた意見についてアンケートを実施)
(2) 学生FDミーティングでの学生からの意見・要望の共有とディスカッション、
の2点である。

(1) 臨時授業アンケート

学生FDミーティングで出された意見と同様、臨時授業アンケートではオンライン講義やオンデマンド講義を推すものが多かった。これらに対して「対面式講義でも動画(講義担当者は映さない)を作成して公開する」「復習用の課題を用意する」などの対処を教員は取っていることが報告された。

(2) 学生FDミーティング

前述のように、講義関係の意見として「オンライン講義は時間活用の面で便利」といったものが多く示された。これについて、ある教員から、学生は時間面の効率性(タイム・パフォーマンス)を気にしているという意見が出された。その一方で、別の教員からは、我々(教員)の考える効率性と学生の求める効率性には大きなギャップがあり、学生はラクをすることを重視しているので気をつけて言い分を聞くべきである、という意見も出された。これらの意見を踏まえ、今後の講義についての工夫を各自進めていくこととした。

次年度の要望として「講義形態切り替えの基準を設けてほしい」「切り替えをもっと1週間以上前に通知してほしい」というものがあつたが、これらに対しては基準・ルールを厳格に定めると却って煩雑になること、緊急事態宣言発出などを1週間以上前に察知することは困難ではないか、という意見が出された。また、「バスを増便してほしい」「バス増便が無

理であれば時差登校ができるように時間割を検討してほしい」という要望もあった。これらに対しては、バスについては人員の手当の問題があること、時差登校については時間割をゼロから見直す必要があるため、いずれも実行は困難であるとする説明が学部長などからなされた。

施設面の要望として出された食堂の増設、充電設備増設については、資金の問題などで、現状では対応が困難とする説明が学部長などからなされた。特に充電設備増設については、スマートフォンの充電が主目的と考えられ、必要なか疑問だとする意見も出された。

なお、講義運営・施設に関連する事項として、学生に共通のパソコンを持たせる、という提案がなされた。これは、学生が利用しているパソコンを共通化することで、講義で使用するアプリの説明がしやすくなるからである。

3. 授業アンケートにもとづく教員表彰

授業アンケート結果の集計にもとづき、学生からの評価が高かった教員とその担当科目を、前期・後期開講の必修・選択科目からそれぞれ1つずつ、計4科目を選出し、3月15日のFD勉強会内で表彰を行った。

WEB 授業アンケートの回収率を高めるという課題を意識すべきではあるが、今年度はほぼすべての講義が遠隔式であったために回答率が低いことを考慮し、表彰の対象を

- 回答者数10人以上の科目（回答率が低いため）
- 前期・後期のそれぞれの必修科目・選択科目（表彰対象者は最大4名）
- 経済学部専任教員

の各条件を満たしたものとし、授業アンケートの設問Q2、Q3、Q4、Q5の点数の平均値が最も高い講義担当者を表彰対象者とし、4名の教員を選出した（教員名／対象講義名）。

植杉大 先生／経済学入門・エコノミック・リテラシー（前期必修）

朴景淑 先生／会計学入門（前期選択）

野村佳子 先生／観光学入門（後期必修）

熊川剛久 先生／経済データサイエンス入門（後期選択）

受賞された先生からは、講義での工夫として「オンラインであっても対面式とのギャップがないようにした」「復習用教材を用意した」「講義中に学生にも実習で手を動かすようにした」といったことが紹介された。

写真: FD 勉強会の様子(1132 教室)

